学校・家庭・地域連携サポート事業

地域学校協働研修会

令和3年7月29日(木)10:00～16:00　たまかわ文化体育館クラブハウス・アリーナ
参加者 26 名
（放課後子ども教室関係者１４名　児童クラブ関係者１名　地域学校協働活動推進員４名　行政・公民館関係者７名）

牛乳パックを使ったクラフト活動と室内レクを行いました

講師:元那須甲子青少年自然の家所長　佐藤　修　氏
演題:子どもの心がときめくクラフト活動と室内レクリエーション

講師の佐藤氏には事前に様々な準備物等を御準備いただき、子どもの心がときめくクラフト活動とレクリエーションについて講義いただきました。

元那須甲子青少年自然の家所長　佐藤修 氏

【簡単クラフト活動】

1．牛乳パックを使ったキューブ

完成したキューブ

皆さん真剣です

牛乳パックを３つに切って、鎖のように組み合わせると、おもしろいキューブができます。箱の表面にいろいろなキャラクターを貼ったり、絵を描いたりして楽しむことができます。図柄は前もって指導者が準備してもかまわないし、子ども達に描かせてもおもしろいです。

【準備物】

□牛乳パック 1L1 箱　□のり　□両面テープ　□セロテープ　□図柄６面×2

2．牛乳パックを使った３点透視

牛乳パックの中に３点透視の図柄を入れると、のぞき穴から町並みが浮き出て見えます。図柄の色は子ども達に色づけさせると楽しい作品ができます。

【準備物】

□牛乳パック 1L1 箱　□のり　□セロテープ

書画カメラで手元を映して

のぞき穴をつくります

完成！のぞいてみると･･･

３．船長さんのシャツ

新聞紙 １ 枚で帽子を作ったりはしごを作ったり。最後は、船長さんのシャツになって出来上がり。修先生の美声とともに、楽しみながら活動しました。

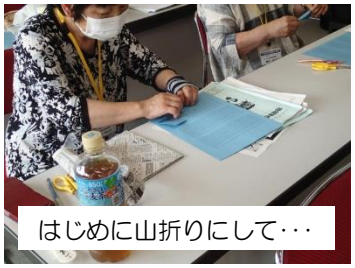
船ができました

船長さんのシャツ

はしごは歓声があがります

４．回る輪

輪になる用紙を切って貼るだけ。簡単ですが、不思議なことに、ピンク（左）と水色（右）の輪は回り方が違います。秘密は、切るときのはさみにあります。ピンク（左）は左利き用のはさみで切りました。簡単ですが不思議がいっぱい。やってみてください。


はじめに山折りにして･･･

線に沿って切るだけ

回してみたくなりますよ

【レクリエーション・レクソング】

１．レクソングのいろいろ

○　どんぐりころころ
○　もしもしかめよ
○　南の島のハメハメハ大王

大きな声を出して、気分転換やリフレッシュにぴったりです。

○　森のキツツキさん
○　八百屋のお店

楽しく笑いのある活動につながります。

声と振りをみんなで合わせて

２．考えるゲーム編

○　チクタクぼんぼん
○　リバースバズ

頭を使いますが達成感を味合わせることができます。子ども達が、協力すること、認めることの体験につながります。

【参加者の声から】

○　身近な材料で奥の深い活動が出来ることに感心しました。物作りに関して自分の不器用さに愕然としました。

○　佐藤先生の事前準備に感激しました。子ども達との活動時間に合わせてどこまで準備するのか、子どもの作業中にどんな声かけをしたらいいかなど、とても勉強になりました。ありがとうございました。

○　楽しく作ることができました。早速子どもたちに伝えたいです。

○　レクリエーションは懐かしく、楽しかったですが、子ども教室でいっしょにやる場を設けることが可能でしょうか。現在のところ、子どもが選んだ遊具、道具を使った遊びが主になっていて、スタッフ主導のレクレなどはやっていないので、一斉にやるなら準備や工夫が必要になると思いました。まず、スタッフがやってみようという共通の思いが必要かと思いました。

田村市内の地域コーディネーターの活動を御紹介しました

発表者:田村市地域学校協働活動推進員　伊藤　智広　氏

演　題:学校支援コーディネーター6年生として伝えたいこと

伊藤智広さんは、田村市地域学校協働推進員として移地域教育協議会に所属し、主に緑小学校、緑幼稚園で活動しています。年間を通して、大変充実した活動を実践されていました。

【令和２年度の活動紹介】

田村市地域学校協働推進員 伊藤智広氏

１．５．６年生の総合的な学習活動支援「田植え体験」

○　苗の植え方、管理の仕方などを支援しました。裸足で活動させたくて実践しました。

２．カブト虫プレゼント（佐久間工務店の佐久間一正さんとともに）

○　年間 300 匹のカブトムシをプレゼントしました。

３．特設陸上部の指導（日本スポーツ協会、日本バレーボール協会公認指導員として）

○　子ども達は真面目に練習に取り組みました。中学校の部活動へうまく引き継がれています。

４．森林教室「移ケ岳登山」（緑の指導員さんとともに）

○　樹木の様子や種類を説明しながら登山しました。ボランティアの方々の力を借りて、全員登山することができました。

５．ふれあい移動動物園（アニマルフォレストうつしの森　吉田夫妻　とともに）

○　動物と触れあう機会から、動物愛護の精神を育成しました。

６．５．６年生の総合的な学習活動支援「稲刈り体験・脱穀体験」

○　「はせがけ」や「もみすり」など、昔ながらの稲刈りをあえて体験させました。60 ㎏のお米を収穫することができました。

７．３年生の総合的な学習活動支援「えごまの栽培から搾油」（紺野敏子さんとともに）

○　昨年は搾油するにはエゴマが足りませんでしたが、今年はたくさんとれて搾油することができました。

８．感謝祭(収穫祭)に向けてロケットストーブと石焼き芋窯を作成

○　火の付け方が分からない、できない児童が多く、校内行事で体験し学ばせることができました。飯ごうでごはんを炊きましたが、失敗することもとても大切な活動です。

９．イルミネーション巨大ツリー（有志４人とともに）

○　地域の方と一緒に行いました。点灯式には保護者も参加して点灯しました。

１０．伝統芸能を学ぶ（子ども神輿・出囃子）

○　上移伝統芸能保存会とともに、地域に伝わる子ども神輿や、出囃子を体験しました。

１１．広報活動

○　緑小学校玄関、移出張所窓口にモニターを設置して、スライドショーにして活動の写真を映しています。

１２．３年生の総合的な学習活動支援「キクラゲ農家で学ぶ」（安田悟さんとともに）

○　キクラゲを栽培している農家を紹介し、栽培の様子を見学しました。農家の方からキクラゲをいただき、学校でも栽培してみました。

【まとめとして】

○　学校の先生方がどんなことをやりたいかを知り、一緒に考えて継続的な支援を提案したいです。
○　コーディネーターとして、趣味や特技など自分のスキルを最大限に活用したいです。
○　定期的に学校を訪問し、子ども達と触れあうことを大事にしたいです。
○　言葉や文章では得られない体験を通した学びが大事だと思います。

【問題点・課題】

●　大規模校と小規模校では支援内容に違いがあります。
●　縦割り行政のため、公民館、生涯学習課、学校教育課、こども未来課の横の連携が必要です。
●　コーディネーターと地域連携担当教職員が連携し、協議をする時間が欲しいです。
●　１学校１コーディネーターの配置が理想だと思います。

【今後の目標として】

○　ボランティアさん、教職員、保護者、地域の先生が一丸となって子どもたちの未来のために、子どもたちのあふれる好奇心をくすぐり、子どもたちの笑顔に触れ、誰にでも誇れる活動を目指していきます。子どもたちの笑顔と歓声こそが私たちの活動の原動力なのです。
○　子どもたちが、将来どこに居ても地域の担い手として、私たちと共に知識、経験、スキルを研鑽し、それを活かし、活躍し、大きく羽ばたいてくれる日を信じ、期待して活動をしていきます。
○　小学生では、あらゆる可能性を示し自ら取捨選択の機会を与えることが大事です。この目標を達成するために、今後もボランティアの皆さん、地域の皆さん、教職員の皆さんと共に継続的に全力で取り組んでいきたいと思います。

【参加者の声から】

○　登山と石焼き芋窯の話が、ワクワクしました。
○　小規模校ならではの素晴らしい活動でした。
○　地域を学校ボランティアさんと子どもたち、教職員との連携が素晴らしかったです。
○　いろいろなことをやっているのにすごいと思いました。
○　子どもたちに貴重な体験を提供していてすごいと思いました。地域の方と協力しながら近づけるように努力したいと思います。
○　子ども達に体験させたいことを提案し、実行していて素晴らしいと思いました。何より子ども達が楽しんでいる様子が写真から伝わってきました。出来ることを参考にしたいと思いました。
○　米作りの目的と活動を通して子どもの意識がどう変化したのか知りたかったです。地域サポーターの存在を知らなかったですが、学校だけではなし得ないことをサポートしていただけるのはありがたい存在だと思います。学校との連携が大切だと感じました。

田植え体験

森林教室「移ケ岳登山」

ロケットストーブと石焼き芋釜

地域人材の活用と安全安心な子ども教室の運営についてお話頂きました

講師：放課後 NPO アフタースクールエリアマネージャー　村﨑　理恵　氏

演題：豊かな放課後実現のために

　　安全・安心な放課後子ども教室づくり

放課後 NPO アフタースクール村﨑氏

講話①「豊かな放課後実現のために」

1．放課後 NPO アフタースクールについて

○　全国２１校で、小学校施設を活用したアフタースクールを運営している。

○　これまでの実績や活動が評価され、グッドデザイン賞を４回受賞、文部科学省「青少年の体験活動推進企業表彰審査員奨励賞(2016)」「内閣府特命大臣(地方創生担当)表彰(2018)」など、様々な賞を受賞されている。

○　２つの基幹事業･･･①アフタースクール事業　②企業協働「教育」プロジェクト事業 がある。

○　アフタースクールには１～６年生のすべての児童が参加できる。

○　地域住民から「市民先生」をつのり、活動プログラムを通してアフタースクールが子どもたちの安全安心な居場所となり、自己肯定感をはぐくむ場所となることをめざして運営している。

2．子どもにとって放課後はどんな場所なのだろうか

⑴　静的ホームルーム･･･ほっとする場所。帰ってくるところ。
⑵　動的活動の場･･･思いっ切り体を動かし発散できる場所。
⑶　創作の場･･･やり込める。好きに作れる。

} 放課後の居場所づくりをめざす

3．子どもにとって放課後の価値

⑴　現代の子どもにとって放課後の価値は「自由」「挑戦」「夢中」「多様」「社会」「仲間」である。

⑵　新しい時代（VUCA の時代）に求められる力は、放課後にも培われる。

○　自分の過ごし方を自分で決める
○　状況は変化が大きく、それに合わせて過ごす
○　多様なメンバー、異学年とも遊ぶ
○　納得解を探す

V：VOLATILITY（変動性）
U：UNCERTAINTY（不確実性）
C：COMPLEXITY（複雑性）
A：AMBIGIUTY（曖昧性）

⑶　放課後だからこそできる「やることが決まっていない良さ」「子どもに選択肢がある良さ」がアフタースクールにはある。

4．アフタースクールの事例紹介～子どもが自発的・継続的に取り組む仕掛け～

⑴　子ども会議（子どもの声を聞こう！）

○　夏休みにやりたいことを決めよう。

【作品展示のルールを決めよう】

・　大人が決めたルールで過ごすのではなく、子ども達自身でルールを作って欲しい。自分たちで決めたルールは必ず守るようになる。

【夏休みにやりたいことを決めよう】

・　アフタースクールで過ごす時間がたっぷりある夏休み。子ども達がやりたいことをやらせたい。一部の準備は、子ども達に実行委員に入ってもらって一緒に準備する。

⑵　駄菓子やおやつＤＡＹ

○　せっかく毎日食べるおやつなので、子どもたち自身でおやつの時間を楽しんでもらいたい。

○　お金の計算を通して、数に親しめればいい。

○　うまくいかないこともたくさんある。それが良い。うまくいくように大人が誘導する必要はない。

○　やる気を引き起こす、ひらめきにつながるようなちょっとした声掛けが命である。

⑶　スペシャルウィーク

○　「工作ＷＥＥＫ」「プラレールＷＥＥＫ」「みんなで協力！巨大アートを楽しもう」など。

○　単発ではなく、一週間程度続けて、じっくり行える環境を設定する。

⑷　放課後ラボ　～やりこむ×探求×遊び～

○　企業と地域が連携し、興味の幅を広げる多様な体験プログラムを行う。

○　発表会や展示会を実施して、他の子どもや大人からの賞賛が自己肯定感の向上につながる。

５．地域人材の活用例「市民先生」

○　市民先生の探し方

・　地域の知り合いや保護者、教育関係機関や企業、公民館や地域活動先に出向くと、情報が得られる。広報物やイベントなどで発見されることもある。

・　大人を巻き込むことにメリットがある。豊かな未来（地域）につながる第一歩になる。

・　子どもたちを取り巻く人（市民先生）が、地域と一緒に子どもを育てる。放課後づくりで大切なことは、たくさんの大人と出会える、たくさんの応援者がいる環境をつくることである。

講話②「安心・安全な放課後子ども教室づくり」

１．児童期の発達の特徴

○　興味の探究のために自らを律することができるようになる。

○　環境が広がり、多様な他者との関わりを経験するようになる。

○　他者と自己の多様な側面を発見できるようになる。

○　心理的な葛藤を経験するようになる。

２．児童期の発達の過程

○　発達は固定的ではなく、個人差も大きい。均一的な発達の基準ではなく、一人ひとりの子どもの発達過程を理解する目安である。

３．児童期の生活の中の「遊び」

○　遊びは子どもにとって「自主的」な活動であって、様々な能力が統合化される活動である。

○　遊びは自分で決めることができる行動である。「一人遊び」も「見ていること」も遊びへの参加として認められる。

４．発達障害について

○　発達障害は、生まれつきの脳機能の発達のアンバランスさにある。

○　発達のアンバランスさに、環境、周囲の人との関わりのミスマッチが社会生活に困難を及ぼす。

5．アフタースクール内でのチーム連携の方法

⑴　ミーティングの持ち方

- 月１回、ロングミーティングを実施する。
- 具体的な事例を用いて、共通事項を整理し、明文化して共有する。

⑵　児童の記録の活用

- 児童の傾向、行動の特性、それに対する対応は全員で共有する。
- 随時、学校とも児童の情報を共有する。また、ケースによっては、子ども家庭支援センター、児童相談所とも連携する。

⑶　特別な支援が必要な子へ支援

- 専門家の巡回サポートを要請して、巡回指導員、臨床心理士、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携する。

⑷　拠点合同研修

- インクルーシブな教室経営を目指し、合同で専門性向上研修を実施する。

⑸　簡単にできるスタッフ間の連携

- 活動後に、ノートに今日の出来事を記入してから退勤する。
- スタッフによって支援方法に差が出ないように、ミーティングで支援方法を統一する。
- タブレットやカメラなどで記録に残す習慣を身につける。

6．ケーススタディー

Ａ君は、ブロックを口に入れたり、指をかんだりする子どもです。また、特定の女の子に対して執拗に関わり、嫌だといってもちょっかいを出します。あなたなら、Ａ君に、また周りの子どもにどんなアプローチをしますか？

参加者で話し合いの場をもって

⑴　Ａ君への適切なアプローチ

- 「口に入れない」など具体的な方法を教える。わかりやすい丁寧な対応が必要になる。

⑵　周囲の子ども達への適切なアプローチ

- 安心感を与える言動が大切である。スタッフの丁寧な対応は、子ども達にとってもいい鏡となって映る。

7．子どもへの対応について

○　インクルーシブな教室経営をめざして支援を行う。合理的配慮は特別扱いではない。

○　選択権は子どもにあり、選択肢を多く作ることが大人の役目である。

8．安全管理について

○　コロナ対策と熱中症

- 熱中症が起きる原因は「環境」「からだ」「行動」によるものである。
- 汗と皮膚で体温調節ができず、熱が身体にたまり熱中症を引き起こす。
- マスク着用のルールを全体で確認する。
- 熱中症の理解と緊急時の対応を視覚化し、再確認する。

○　放課後の特徴と対策

- 放課後子ども教室は、活動はバラバラで、その場にあった適切な判断が求められる。
- 活動場所は数カ所に渡るため、場所によって避難等の対策が変わる。事前の情報収集と確認が必要になる。
- 長時間の利用時には、午前、午後のスタッフの引き継ぎが大切である。
- 利用者は日によって変わるため、利用者の情報を把握、管理する必要がある。
- 放課後子ども教室のスタッフは、幅広い知識と対応力が必要になる。そのため、年間を通して現場で研修を行い、事例を共有し、レベルアップを図っている。
- トラブルは起こるものだからしっかり予防と対策をする。「対応は冷静に、報告は丁寧に」を心がける。

【参加者の声から】

○　一人一人の子どもを大切にしていることがとても伝わり、参考になりました。

○　市民先生という言い方に共感を覚えます。ボランティア活動者の増加と、若返りが必要と感じます。

○　子どもの自主性を重視した活動でとても参考になりました!熱中症対策など具体的で分かりやすかったです。

○　子どもたちの意見を尊重しながら、事業を実施することが大切なのだと改めて学ぶことができました。

○　放課後はゴールデンタイム！豊かな放課後！児童クラブの在り方をもう一度考えさせられました。ミーティングの議題にさせていただきます。

○　子ども達が自分達でテーマを考え、話合い行動にうつす体験は大切だと思いました。

○　スタッフの管理、主導の活動でなく、子どもが主体となれるようなフォローをしていきたいです。そのためにはひとりひとりを把握し、その思いを大切にしていきたいと感じました。そのためのスタッフの数の確保と思いを共有するための話し合いの時間を確保する必要があると思います。熱中症、コロナ対策、発達障害についてはスタッフ全員が研修を受けられる機会が欲しいですね。

○　色々な活動に資金が無く子ども達から徴収するのも難しいですが、お祭りの駄菓子屋さんは良いアイディアなので取り入れたいです。

○　子どもの特徴に合わせた対応をする事や、専門家に相談することも安全な活動につながる事を学ぶことができました。

○　画像での記録は個人情報の観点から当児童クラブではしていませんが、今後、実行可能かどうか確認したいと思いました。

○　子どもに対する声かけ一つの難しさを再認識させられました。

○　子ども対応について、言葉の選び方が難しく思いました。知識を身につける為の勉強会があるといいと思いました。

○　熱中症やコロナウィルス対策など身近な問題が具体的に説明されていていました。

○　熱中症の情報、時期的に助かります。

情報交換

（1）放課後子ども教室および児童クラブの運営や安全管理について

（2）学校との連携と学校ボランティア等の活動状況について

【Ａグループ】テーマ（１）

○　スタッフの人数、おやつの取扱や、遊びの時間、宿題の時間について話し合いました。

【Ｂグループ】テーマ（１）

○　学校との情報の共有ができている状況を話し合いました。

○　周囲と関わり合えない児童への対応について話し合いました。

【Ｃグループ】テーマ（１）

○　休校の際に、学校からスタッフにメールが届くしくみは素晴らしいと思いました。

【Ｄグループ】テーマ（２）

○　大規模校と小規模校でのギャップがあります。

○　事業のアイディアをいただけるとありがたいです。

○　めだかの学校は自由に遊ぶというスタンスなので、逆に何をしていいか分からなくなっています。

【Ｅグループ】テーマ（２）

○　環境整備をするにしても、ボランティアの方がすべてやるのではなく、ＰＴＡのサポートをするような形で支援する方が良いと思います。

○　学校に挨拶に行くにしても、学校の都合に合わせないと学校の負担になってしまいます。

【Ｆグループ】テーマ（２）

○　学校と一体となって行っていて、先生方との関係も良好です。

○　毎日変わったことを実施することは難しいですが、本日の研修はとても参考になりました。

【研修全体を通した参加者の声】

○　初めて参加して、他の教室の様子を聞くことができて良かったです。実施方法は異なっても、気持ちの共有ができて嬉しくなりました。ありがとうございました。

○　参加者からの質問の時やそれぞれのグループ発表の後に、進行が補足情報を入れてまとめて話してくださったのが、とても分かりやすくて良かったと思います。

○　講義、事例紹介、講演、それぞれで大変多くのことを学ぶことできました。とても有意義な研修に参加することができてよかったです。ありがとうございました。

○　楽しめたし、刺激になりました。質疑応答の時間がなくなったのが残念でした。実践で還元していきたいと思いました。スタッフ全員での研修の場が欲しいです。

○　貴重なお話が聞けて充実した時間を過ごすことが出来ました。情報交換も他の児童クラブさんの話が聞けて良かったです。ありがとうございました。